

宮崎県の早期栽培向け業務用米品種の選定

○押川純二・赤木武¹⁾・永吉嘉文
(宮崎農総試・¹⁾ 東臼杵農林振興局)

【目的】

外食や中食で使用される低価格帯の米である業務用米は、全国的に需要が堅調に推移しているが供給量が不足している。宮崎県は、多収で実需者が求める食味や品質を満たした専用品種での供給が少なく、高価格帯米での供給が主流となっており、需要と供給のミスマッチが発生している。

そこで、早期栽培地域を対象とした業務用米専用品種の選定について検討したので報告する。

【材料および方法】

試験は2017～19年に、宮崎県総合農業試験場で実施した。試験区は、「夏の笑み」を比較品種に、「とよめき」、「やまだわら」、「ほしじるし」、「あきだわら」、「笑みの絆」、「宮崎51号」の6品種で行った。また、移植時期は主食用米より遅い4月上旬、栽植密度は地域基準の株間15cm、施肥量は、主食用米の約1.5培の10a当り窒素成分で基肥7kg、穂肥3kgとし、生育、収量、品質、食味を検討した。

【結果および考察】

「ほしじるし」、「あきだわら」、「とよめき」、「笑みの絆」は7月上旬に出穂し、8月上旬が成熟期となるが、「やまだわら」の成熟期はやや遅かった。各品種とも倒伏やいもち病の発生はなく、紋枯病の発生は「少～中」程度であった(表1)。

表1. 生育特性 (2017～2019年)

品種名	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	倒伏	病害	
							穂いもち	紋枯病
とよめき	78.4	20.7	479	7/1	8/7	無～微	無	少～中
やまだわら	81.6	21.2	404	7/9	8/19	無～微	無	少～中
ほしじるし	67.7	19.7	474	7/3	8/7	無	無	少～中
あきだわら	73.6	19.0	471	7/2	8/8	無	無	少～中
夏の笑み(比)	66.6	17.2	601	7/1	8/7	無	無～微	少～中
笑みの絆	74.5	19.0	588	7/2	8/6	無～微	無	少～中
宮崎51号	71.7	17.8	570	6/28	7/31	無	無	少～中

「とよめき」、「やまだわら」、「ほしじるし」、「あきだわら」は、収量は「夏の笑み」を上回った(表2)。「とよめき」、「やまだわら」は、検査等級が規格外となる年があった。食味は各品種とも「コシヒカリ」並みであった(表3, 図1)。

各年次において、収量が高い品種は検査等級が低い傾向が見られた(図1)。

表2. 収量特性 (2017～2019年)

品種名	精玄米重 (kg/a)	同左 指数	千粒重 (g)	粒数 (百粒/㎡)	登熟 歩合(%)
とよめき	79.1	120	22.3	448	71.8
やまだわら	78.7	119	22.9	450	75.0
ほしじるし	74.7	113	23.7	408	75.8
あきだわら	69.1	104	21.0	409	74.0
夏の笑み(比)	67.1	100	21.3	423	73.9
笑みの絆	64.9	98	20.7	360	84.3
宮崎51号	63.7	95	23.8	333	82.2
品種(A)	**	-	-	-	-
分散分析 年次(B)	**	-	-	-	-
A×B	n.s.	-	-	-	-

※分散分析は、*,**はそれぞれ5%,1%水準で有意差有り
n.s.は有意差がないことを示す

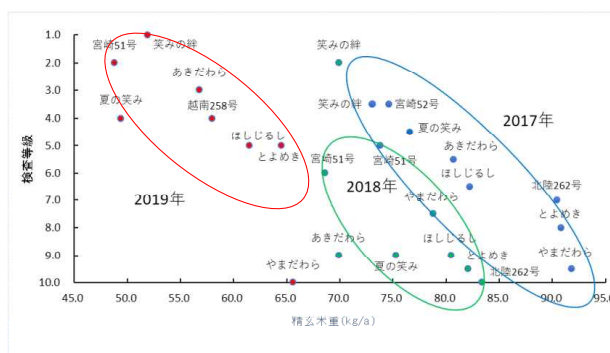
表3. 品質・食味特性 (2017～2019年)

品種名	農作物 検査	タンパク (%)	食味官能試験		
			外観	粘り	総合
とよめき	7.5	6.6	0.00	0.07	0.13
やまだわら	9.0	6.4	0.09	0.38	0.36
ほしじるし	6.8	6.4	0.36	0.18	0.18
あきだわら	5.8	7.3	0.09	0.27	-0.36
夏の笑み(比)	5.8	6.9	0.13	0.33	-0.07
笑みの絆	2.2	7.3	0.00	-0.27	-0.27
宮崎51号	4.3	7.7	-0.07	0.00	0.07

※農産物検査：1上～規格外(1～10)

※食味官能試験:2019年産米結果。基準品種は同一年産の「コシヒカリ」として基準品種の0に対して、3(極端に良い)～-3(極端に悪い)の判断評価。
*,**はそれぞれ5%,1%水準で有意(スティーブ・ワース法)。

図1. 検査等級と収量の関係 (2017～2019年)



以上のことから、宮崎県の早期栽培向け業務用米品種として有望なのは、「夏の笑み」と比較して、熟期が同程度で収量が多収で、食味、検査等級が同等である「ほしじるし」及び「あきだわら」と考えられた。